

『こち亀』でフェラーリを乗り回す 中川さんに、小学生の頃から憧れていました

新進気鋭の落語家、林家木りんさんは、大相撲元大関で7代目伊勢ヶ濱親方の二男で兄弟も元力士。その血筋から、本人も世界一大きな落語家として評判を呼んでいます。

その木りんさんと林成治社長が新年早々ガチンコ対談。どんな話が飛び出したのでしょうか。



落語家 林家木りん Kirin Hayashiya

1989年生まれ。東京都文京区出身で浅草育ちの落語家で、落語協会所属の二ツ目。大相撲元大関で7代目伊勢ヶ濱親方の清國勝雄の二男。2009年に林家木久扇に入門。2013年に二ツ目昇進。落語だけでなく、モデルやテレビのレポーターとしても活躍中。今注目の若手落語家です。

林..ぜひ、今年こそ免許を取って、カーコンカリース「もろコミ」でクルマを手に入れてください(笑)。

実は「もろコミ」にはビックリしたんです

木りん..いや、実はね、「もろコミ」にはびっくりしたんです。と言うのも、僕は母のクルマの駐車料金を払っていて、それでこの前、運転できないのに母のクルマを僕の名義にされてしまったんです。母は古いプレジデントに乗っているのですが、重量税が高いことに驚きました。「もろコミ」は車検も重量税も自動車税も全部込みで月々1万円前後。こんなのがあるんだって驚愕したんです。

林..今は、奥様たちや若い人たちはカーリースが当たり前の選択になってきていますね。木りん..そうですね。なるほど、一番賢い選択だと思えますね。

林..しかも、「もろコミ」なら、最終的にリースが終わればクルマが自分のものになります

木りん..実は、僕もクルマの免許は持っていません。教習所の費用が高額なのと、教習所に通う時間がかかり過ぎるのがネックになっています。アメリカの事情を調べてみると数十ドルで取れて、21歳以上の自動車免許所有者と一緒に乗って練習すればOKなのだそうです。これって、日本にも必要なことだと思えますね。

林..日本もこれからハードルが下がるかもしれませんね。運転手が足りないことが理由で今年から二種免許のハードルも下がりますから。クルマを愛する人を「クルマニスト」と称します

木りん..僕もそうですが、免許を取るのおつくだからクルマに乗らないという人達もたくさんいますからね。

林..学生の時に免許を取っておかないと、社会人になってからはなかなか取る機会がないので

からね。

木りん..えーっ、それで利益が出るんですか。全部コミコミなのに月々あの額ですからね。それも、確か、月に2000kmまで走ることができるんですよ。

林..リースが終わって自分のクルマになるという前提なら走行距離の縛りはありません。どれだけ走っても大丈夫なんです。木りん..へえー、そうなんですか。どれくらい乗れば自分のものになるんですか。

林..7年リースと9年リースが選べます。そのリース期間が終了すれば自分のものになるわけです。

木りん..すごいですね。ワンボックスのアルファードなんかもできるんですね。確か、月々3万8000円ぐらいだったかな。僕、すごい興味があって調べたんです(笑)。免許は持っていないのにクルマは大好きなんです。少年ジャンプに連載

していた『こち亀』の大ファンで、中川圭一というレギュラーキャラがフェラーリに乗っているのを小学生の時から見て憧れていました。

林..木りんさんは、どこか中川の雰囲気があるよね(笑)。木りん..そうですね、嬉しいですね(笑)。でも、まあ、自分の収入ではフェラーリは夢物語だし、まだ免許も持っていないしね。「もろコミ」でアルファードのことを調べたのは、相撲部屋のクルマではアルファードがめちゃくちゃ多いからなんです。大きな力士が乗るには大きなクルマが必要ですからね。僕も身長が192cmあって世界一大きな落語家です(笑)。

林..自動運転が普及すれば免許が取り易くなるかもしれないというお話を先ほどしました。自動運転の時代になれば、移動しながらコーヒーや紅茶を飲んでくつろいだり、映画や落



語を大きなスクリーンで楽しむことができるようになるって言われています。そうなるクルマの楽しみ方や使い方が変わって、クルマが欲しいという若い人達も増えるでしょうね。

木りん..クルマでのデートの楽しみ方も変わりますね。動く部屋のような感覚ですから。そうなれば需要ももっと増えますね。うん、やっぱり今年こそ免許を取ります(笑)。



カーコンビニ倶楽部
代表取締役社長 林 成治
Seiji Hayashi

「自動運転の時代になれば、クルマの楽しみ方や使い方が変わってきます」